

## STAGE+を楽しむ(354)(HP 収載)

### ーヴェルディのアイダー

#### 1. 始めに

前報(353)に引き続き、STAGE+のヴェルディのアイダーの演奏の試聴を実施します。

#### 2. 試聴音源

今回は、前報(352)に引き続きヴェルディのアイダーの演奏を選びました。

アダム・フィッシャーが指揮するヴェルディ：《アイダー》

チューリッヒ歌劇場管弦楽団

収録日：2006年6月5日

名匠アダム・フィッシャーの指揮、そしてニコラ・ジョエルの演出によって、2006年にチューリッヒ・オペラ・ハウスで行われた《アイダー》は、オペラファンの間で話題となりました。アイダー役は、現代最高のワーグナー・ソプラノとして知られるスウェーデン出身のシュテンメ。アイダーのライバルであるラダメスを演じるのは、リチートラ。イタリアを代表するテノールのひとりでしたが、2011年、交通事故のために43歳で帰らぬ人となりました。今、ここに彼の歌声がよみがえります。色彩あふれるスペクタクルも魅力です。

ソリスト：

ニーナ・シュテンメ（ソプラノ）、クリスティアーネ・コール（ソプラノ）、ルチアーナ・ディンティーノ（メゾソプラノ）、サルヴァトーレ・リチートラ（テノール）、ミロスラフ・クリストフ（テノール）、ホアン・ポンス（バリトン）、ラズロー・ボルガール（バス）、ギュンター・グロイスベック（バス）

演奏：

チューリッヒ歌劇場合唱団、チューリッヒ歌劇場シュタティストフェアアイン、チューリッヒ歌劇場管弦楽団

指揮：

アダム・フィッシャー

曲目：

ジュゼッペ・ヴェルディ 歌劇《アイダー》



### 3. 試聴の経過

前回は引き続き、これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツも使用しています。さらに、スピーカーアキュライザーのマイナス端子への **Crystal EpY-G** の接続を継続し、PC の仮想アース **Crystal E Jtune** を連結しています。

また、ルーター→スイッチングハブ間の LAN 接続に **OPT ISO BOX** を適用し、**OPT ISO BOX** の AC アダプターの DC ケーブルに **FX Audio** の **Petit Susie Solid State** を介在させてスイッチング電源からのノイズの低減を図っています。

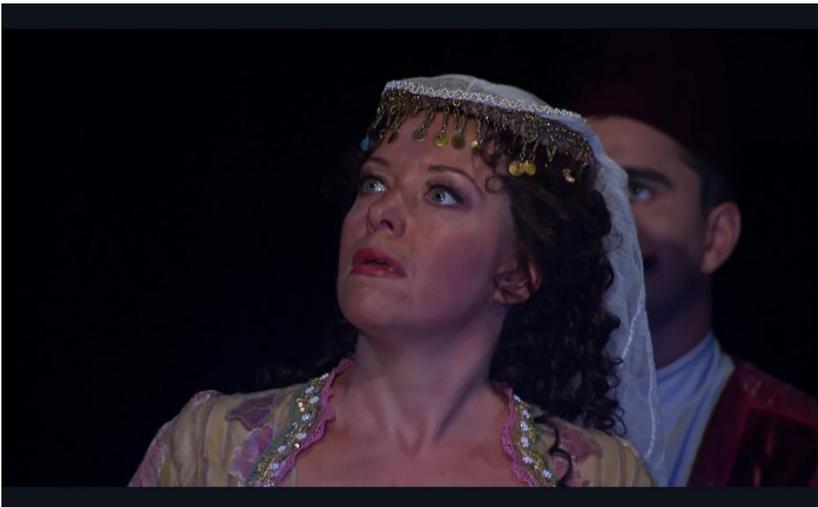
今回、スイッチングハブ→PC 間 LAN 接続は、**LAN iPurifier Pro** の交換後に元に戻しています。

今回は、PC の受信からクロック入力の修理済の **Brooklyn DAC+** に送り出しています。また、PC と **Brooklyn DAC+** の間の介在は、**iPurifier USB** からインフラノイズの **USB** アキュライザーに交換しています。クロック入力には **ABS-7777** を適用しています。

アイーダは古代エジプトを題材にしたものと理解していましたが、ユニオンジャックの旗が見えたり、軍艦からの凱旋のようなシーンがありますので、どうやら近世の英国の物語に翻案されているようです。ところどころ画面が分割され、それぞれに複数の映像が流れます。挿入される踊りも近代のバレエの振り付けのようです。

翻案による映像の違いに戸惑いながらも、収録が 2006 年で音質もよく、ソリストのダイナミック歌唱力と、数多い合唱陣の圧倒的な迫力、間奏曲のヴァイオリンやフルートの美しい弱音など、ヴェルディオペラの醍醐味が味わえます。







#### 4. まとめ

これまでに実施してきた対策に加えて、アースアキュライザーの活用(6)で報告しましたようにアースの再構成を実施し、AV ドーナッツや Crystal EpY-G や PC の仮想アース Crystal E Jtune を連結し、LAN 接続に OPT ISO BOX と電源交換した LAN iPurifier Pro を適用し、ABS-7777 からのクロック入力の Brooklyn DAC+ に送り出し、PC と Brooklyn DAC+ の間には USB アキュライザーに交換した結果、ソリストのダイナミック歌唱と、数多い合唱陣の圧倒的な迫力など、スケールの大きなこのオペラの表現を印象つけるものです。

以上